

中体連総合大会壮行会開催

6月8日（水）から開催されます「第65回福島県中学校体育大会相双地区予選会」に出場します選手壮行会が行われました。各運動部はユニフォーム姿に着替え、吹奏楽部による演奏に合わせて入場しました。ステージの上では、各部の部長が出場選手紹介や大会に向けての意欲や抱負など発表しました。生徒会役員の伏見小春さんが激励の言葉を述べ、バスケットボール部長の伊賀隆将さんが選手代表のあいさつをしました。特に三年生にとっては中学校最後の大会となります。これまでの練習の成果が十分発揮され、思い出に残る大会にして欲しいと思います。

壮行会終了後には、各部ごと卒業アルバム用写真撮影が行われました。



<新型コロナウイルス感染症対策について>

令和4年5月26日に開催された「福島県新型コロナウイルス感染症対策本部員会議」において、「子どもの感染拡大防止重点対策」が令和4年6月12日（日）まで延長されることが示されました。このことを受け、本地区中体連連盟では、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら予定どおり実施することとしました。大会は、全種目を無観客開催とするのではなく、新型コロナウイルス感染防止対策を十分にとった上で、各競技の特性や会場の条件等を考慮し、各競技ごとに無観客や有観客での開催とすることになります。つきましては、各部の顧問から配付されます大会要項等を参照していただき、感染防止対策にご理解とご協力をお願いいたします。

教育実習生終了しました

5月16日から17日間、星葵さん（昭和音楽大学4年生）が教育実習（音楽科）を行いました。星さんは本校の卒業生です。在校中は、吹奏楽部に所属し、日々練習に明け暮れていたといいます。教育実習を通して、当時見えていた中学校時代の視線から、教職員の視線はどのように映ったのでしょうか。この教育実習で得た様々な経験が、今後の大学生活や音楽の指導者として、生かされることを期待しています。17日間、大変お疲れ様でした。



英検にチャレンジしよう!

6月3日に本校で英語検定一次試験が行われ、多くの生徒が試験に臨みました。英検（実用英語技能検定）は、日本で最もよく知られている英語の資格試験のひとつで、「読む」「聴く」「書く」「話す」の4技能を測ることができるのが特徴です。年3回実施されています（一次試験：6月・10月・1月）。各種学校はもちろん、さまざまな業界の企業でも英語力の評価基準として採用されています。1級から5級まであり、準1級と準2級を含めて全部で7段階の級が設定されています。各級一次試験ではリーディングとリスニングの力が試され、さらに1級～3級ではライティングもあります。また、1級～3級では二次試験で面接があり、口頭での描写力や自分の考えを英語で話すスピーキング力も試されます。自分の英語レベルに応じて、どの級からでもスタートすることができます。自分の英語力を高めるためにも、英検にチャレンジしてみるのも良いかもしれません。



生徒会活動<奉仕委員会編>について

4月の生徒会総会を受け、本校では、年6回の奉仕委員会が行われています。生徒会活動を活発にすることで、生徒の自主的・自発的活動を助長し、個々の生徒の自主性及び社会性の発達や個性の伸長を図るとともに、学校生活全体にわたって充実や改善向上を図る態度を育成することをねらいとしています。生徒会活動を活発にするために、活動の時間を定期的に確保し、生徒の活動を通して、生徒の自発的・自治的な活動の活性化を図れるように配慮をしています。



生徒会執行部



保健委員会

～ねがい～ ^{わがんあいご} 「和顔愛語」と ^{せんいじょうもん} 「先意承問」（仏教用語）

法蔵菩薩が修行に励んでいるところで、「和顔愛語にして、意を先にして承問す」と話したとあります。現代語版では「表情はやわらかく、言葉はやさしく、相手のこころを汲み取ってよく受け入れ」と訳されています。「辛いときや嫌なことがあったとき、愚痴をこぼしたくなるとき、そんなときこそ、まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接する姿勢」が「和顔愛語」ということです。また、「先意承問」とは、「先に相手の気持ちを察して、相手のために何ができるか自分自身に問いただす」ことです。「和顔愛語」は、この「先意承問」とセットになってこそ、日常で実践できると思いました。「和顔愛語」と「先意承問」を意識した生活を送ろうと考えさせられる四字熟語だと思います。今後も日常生活に活かせる“ことば”を紹介していきます。

※ 学校だよりは、本校ホームページにも掲載しています。カラー版で読みやすいのでご覧下さい。